

『卒業後に自分らしく生きるための自己理解を深める取組み』

～『就労チェックリスト』『現場実習評価表』『作業学習日誌』の活用を通して～

Ⅰ 研究テーマ設定の背景

本校の学校教育目標は、『心豊かに たくましく みんなとともに 自分らしく 生きる 児童生徒の育成』である。『自分らしく』には、一人一人のニーズ、主体性、自己理解、適応力が含まれており、『生きる』とは、自立と社会参加といった要素が含まれている。

そこで、本校の進路支援においては、卒業後、『自分らしく 生きる』を見据え、生徒が今の自分の課題を的確に把握し、課題解決しながら将来なりたい自分に近づけるように小・中・高一貫した教育と自己理解を深める取組みを推進している。

進路に関する学習は、主に教科「職業」や教科等を合わせた指導「作業学習」を中心に、基本的な生活習慣の定着と基本的な労働習慣の習得に取り組んでいる。生徒自身、希望する進路や将来なりたい自分の姿を考え、各々が一人暮らし、自動車免許取得など夢が持てるように指導している。

本校では、平成30年度より進路指導の自己理解を深める取組の一つとして、『就労チェックリスト』を作成し、運用を始めた。（資料Ⅰ）

Ⅱ 特別支援学校 【就労チェックリスト(保護者用)】

しよくぎょう せいかつ か
(職業生活科)

5…いつもできる 4…だいたいできる 3…ときどきできる 2…あまりできない 1…できない、むずかしい

区分	項目	評価の観点	評価の内容	1年	2年	2年	3年	3年	予備
				10月	6月	10月	6月	10月	
せい かつ	1	生活リズム	・いつも同じ時間に寝たりおきたり、食事したりできる						
	2	健康	・健康に気をつけて、無理な生活をしない						
			・自分できまった時間に薬を飲む、たのんで忘れずに薬を飲む ・具合が悪いときに先生に言える						
	3	身だしなみ	・場に応じた服装ができる						
			・服装、髪、歯、爪、ひげ等をきれいにそろえる						
	4	お金のかんり	・自分のお小遣いを使える						
			・自分で買い物ができる ・お金を大事に使える						
	5	きまりを守る	・学校や社会のきまりを守る(遅刻をしないなど)						
6	交通機関の利用	・バスや電車で一人に乗れる							
7	安全	・安全に注意して行動できる							
8	休まない	・正しい理由以外で休むことがない							
対 人 関 係	1	挨拶・返事	・相手に応じた挨拶、返事をする						
	2	会話	・自分だけでなく相手の話も聞いて会話ができる						
	3	言葉使い	・相手や場に応じた言葉使いができる						
	4	意思表示	・困ったときに周りの人に助けると言うことができる						
	5	電話の利用	・電話を利用して、用件を伝えることができる						
	6	気持ちの安定	・怒ったり、泣いたり、騒いだりせずにいつも落ち着いている						
	7	協調性	・周囲の人と、力を合わせたり、助け合ったりして行動する						
作 業 能 力 ・ 作 業 態 度	1	やるき	・いつもやる気をもって作業できる						
	2	積極性	・いつも自分から作業や準備に取り組んでいる。						
	3	責任感	・自分の作業や役割を最後までやり遂げようとする						
	4	集中力・持続力	・時間いっぱい集中して作業を続ける						
	5	判断力・思考力	・製品の出来がいいか悪いか、自分でわかる						
	6	正確性	・ミス無く正確に作業できる						
	7	器用さ	・細かい作業がとくいだ						
	8	作業速度	・さいしょに言われたスピードで作業できる						
	9	体力	・休憩以外、休まず1日中作業ができる						
	10	指示の理解	・きちんと最後まで説明を聞き、分からないことは質問をする						
	11	報告・連絡・相談	・ホウレンソウ(報告・連絡・相談)ができている						
	12	時間を守る	・作業の始めと終わりの時間を守る						
	13	機器・道具の使用	・道具類を安全に使える						
	14	変化への対応	・作業のしかたが変わっても言う通りにできる						
	15	整理整頓	・作業場の整理整頓をする						

以下、『就労チェックリスト』三者（担任、保護者生徒）による評価結果（資料2）は、それぞれが同一のチェック項目を評価することで、客観的・多角的な視点で、生徒の現状や課題を捉えることを目指したものである。

活用場面については、進路面談、現場実習事前・事後学習、生徒自身の達成状況や課題を把握する際に活用しており、その結果、「課題の改善に向けた意識改革」や「進路実現に向けた取組」へと繋がっている。

職業生活科の中でも生徒の実態は、企業就労から生活介護まで幅広い進路の方向性があるため、担任は日頃から生徒の進路希望に合わせて助言を行ったり、必要に応じて、本人・保護者・担任・進路部の4者面談を行い、進路の方向性や事業所に関する情報提供を行っている。

しかし、これまで、進路選択の際、生徒・保護者・担任のそれぞれの思いが一致しなかったり、生徒のみに決断を委ねたり、生徒の実態とは異なる進路先を希望する保護者がいるなど、進路の方向性が定まらないことがあった。

そこで、現状を捉え、『自己理解を深める』手段として、現場実習時に事業所からの評価となる『現場実習評価表』の項目を『就労チェックリスト』と共通化することで、事業所の評価よりもさらに客観的な視点で、生徒の現状把握に繋がるのではないかと考えた。

また、週当たり約3分の1を占める作業学習に使用する『作業学習日誌』も同様に、『就労チェックリスト』の主な項目と共通化を図り、担任と作業担当者とは連携を取れるような工夫をすることで、進路実現に向けた取組がより効果的にできると考えた。

以上のことから、『現場実習評価表』と『作業学習日誌』のツールが、『就労チェックリスト』を基とした系統性をもつことで、生徒の自己理解が深まり、課題改善へと繋がっていくものと考えた。

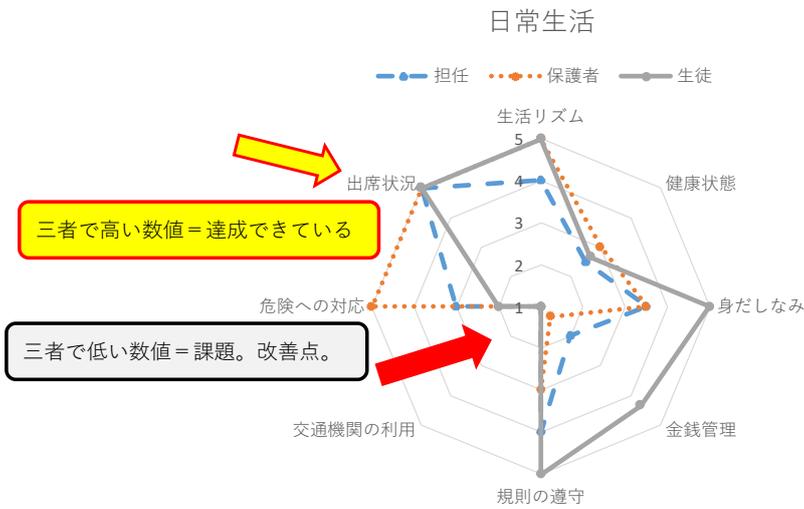
資料2

『就労チェックリスト』 三者（担任、保護者、生徒）による評価結果

高等部（ ）年 氏名（ ）

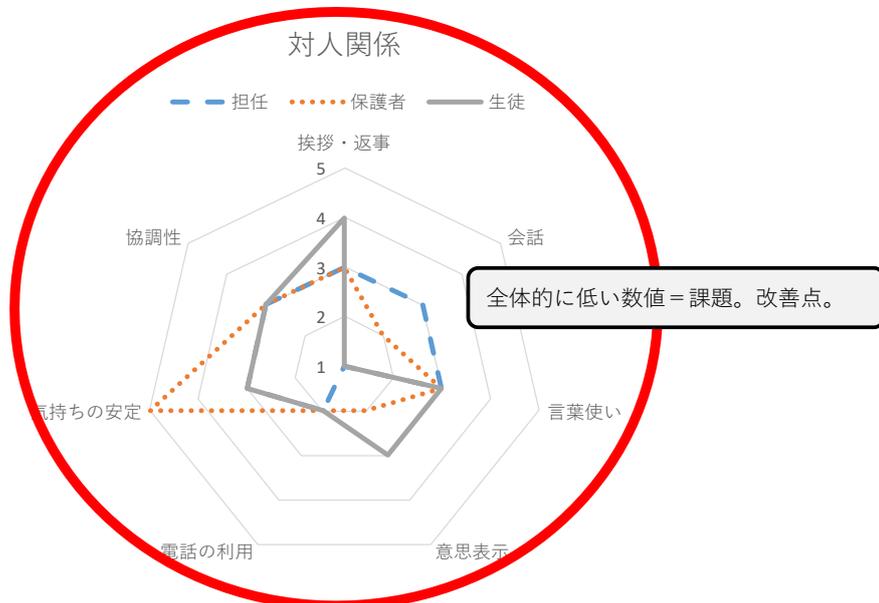
① 日常生活に関する項目

	日常生活							
	生活リズム	健康状態	身だしなみ	金銭管理	規則の遵守	交通機関の利用	危険への対応	出席状況
担任	4	2.5	3.5	2	4	1	3	5
保護者	5	3	3.5	1	3	1	5	5
生徒	5	3	5	4	5	1	2	5



② 対人関係に関する項目

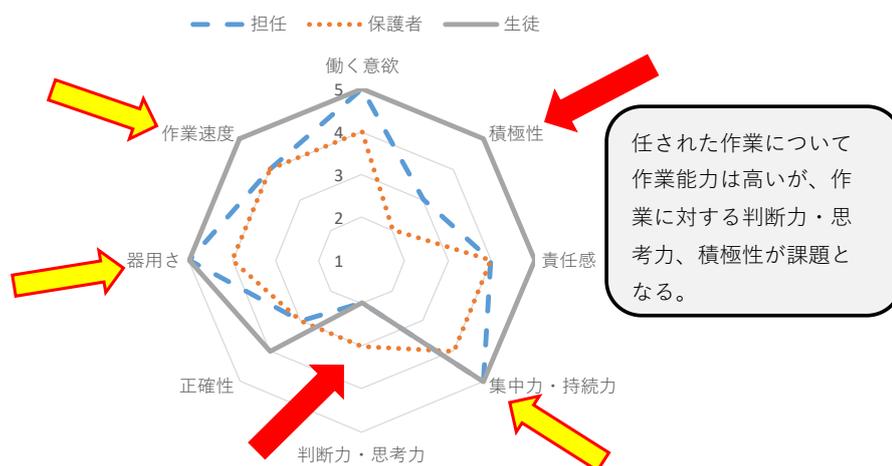
	対人関係						
	挨拶・返事	会話	言葉使い	意思表示	電話の利用	気持ちの安定	協調性
担任	3	3	3	1	2	3	3
保護者	3	2	3	2	2	5	3
生徒	4	1	3	3	2	3	3



③ 作業能力・作業速度に関する項目

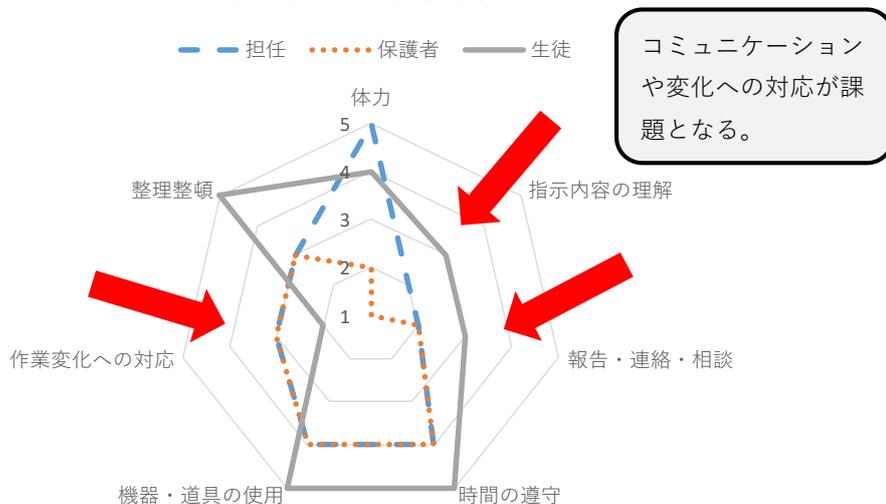
作業能力・作業速度 2								
	働く意欲	積極性	責任感	集中力・持続力	判断力・思考力	正確性	器用さ	作業速度
担任	5	3	4	5	2	3	5	4
保護者	4	2	4	4	3	3	4	4
生徒	5	5	5	5	2	4	5	5

作業能力・作業速度 1



作業能力・作業速度 2							
	体力	指示内容の理解	報告・連絡・相談	時間の遵守	機器・道具の使用	作業変化への対応	整理整頓
担任	5	2	2	4	4	3	3
保護者	2	1	2	4	4	3	3
生徒	4	3	3	5	5	2	5

作業能力・作業速度2



2 研究内容

連動性を持たせた『就労チェックリスト』『現場実習評価表』『作業学習日誌』が、生徒の自己理解を深め、課題の改善を図ることのできるツールとして機能しているか、その系統性や効果について検証する。

3 研究構想

1年次から3年次まで現場実習を合計5回実施する中で、特に2年次後半(3回目)から3年次後半(5回目)までの各ツールの結果を使い、『就労チェックリスト』と『現場実習評価表』の各項目の数値や関連性から両者が連動して機能しているのか、『就労チェックリスト』と『作業学習日誌』による生徒の変容から各ツールの効果を検証する。

(1) 『就労チェックリスト(30項目)』の活用

『就労チェックリスト(30項目)』(以下『就労チェックリスト』とする)の評価結果から導き出された客観的な評価を取り入れ、各項目の達成度や課題から「自己を正しく理解するためのツール」として活用する。

また、その中で明らかになった課題は、作業学習時の目標として取り組むことができるようにする。

進路面談時に『就労チェックリスト』の評価結果を基に、生徒が現状でできていることや改善すべき課題について、生徒・保護者・担任の3者で共通理解を図る。

(2) 『現場実習評価表(12項目)』の改良と活用(資料3)

『就労チェックリスト』からチェック項目を絞って共通化した『現場実習評価表(12項目)』(資料3)を用いて、『就労チェックリスト』の自己評価と『現場実習評価表』による事業者の評価とを比較し、差異を見つけるためのツールとする。

今後の課題として一致していない評価については、主に作業学習時に取り組むようにする。

また、現場実習の事後学習で、教師と一緒に『就労チェックリスト』の結果と『現場実習評価表』の結果を擦り合わせて、「自覚していなかった課題」を認識するようにする。

主として、作業学習時に課題改善へ取組むようにする。

しかし、生徒が同一の事業所で現場実習を行わないことがあるため、評価者の観点が異なることがあり、『就労チェックリスト』の自己評価と『現場実習評価表』による事業者の評価との比較については、全現場実習において若干共通しない場合が見られた。

資料3

実習評価票（一般・A型）

大分県立〇〇支援学校

実習生徒氏名		実習期間	令和4年 月 日 ~ 月 日
実習先事業所			記載者
作業内容			
実習中の欠席日数	日	遅刻	回
		早退	回
<p>職場への適応について、次の項目の評価を下記評価基準（1～5）で記入して下さい。また、具体的に気づかれた点がありましたら簡単な所見を記入して下さい。</p> <p>評価基準 【5:いつもできる 4:だいたいできる 3:ときどきできる 2:あまりでない 1:できない、むずかしい】</p>			
評価項目	評価	所見欄	
1.相手に伝わる挨拶・返事をする(挨拶)			
2.ていねいな言葉遣いができる(言葉遣い)			
3.服装・身だしなみを整えて作業をする			
4.自分の作業や役割をやり遂げようとする			
5.時間いっぱい集中して作業を続ける			
6.最初に言われたスピードで作業できる			
7.休憩以外、休まず作業ができる			
8.きちんと説明を聞き、わからないことは質問する			
9.報告・連絡・相談ができています			
10.作業の始めと終わりの時間を守る			
11.道具類を安全に使える			
12.作業の準備や片付け、整理整頓をする			
<p>※今後、この実習生に努力してほしい点、学校や家庭で指導してほしい点がありましたら、お書きください。</p>			

半(3回目)から3年次後半(4回目、5回目)までの計3回を対象とし、『就労チェックリスト(30項目)』『現場実習評価表(12項目)』『作業学習日誌』の3つのツールを活用した結果の分析から、『就労チェックリスト』と『現場実習評価表』の2つのツール間での各項目の数値の変化や関連性が連動して機能しているか、各ツールを使った結果や『作業学習日誌』の改良で作業学習に取り組む生徒の変容を検証する。

4 実践の経過

(1) 『作業学習日誌』の改良と活用

① 『作業学習日誌』の改良

『就労チェックリスト』から基本的な生活習慣となる「挨拶」「言葉遣い」「身だしなみ」と基本的な労働習慣となる「報告・連絡・相談」「指示理解」「集中力・持続力」「安全な道具の使用」などを基にして、『作業学習日誌』の項目を『就労チェックリスト』と共通化させて、『作業学習日誌』を改良した。(資料4)

② 改良された『作業学習日誌』の活用

『作業学習日誌』に目を通した担任がコメントを記入する欄を追加し、担任と作業担当者が日常的に情報を共有するようにした。1学期終了後、対象生徒全員の『作業学習日誌』について、「生徒の目標設定」「作業担当者の評価」「担任の確認が成立しているのか」を確認した。また、「担任と作業学習担当者との情報交換」の場を2回設定し、課題改善に向けた話し合いをしてもらった。

高等部 作業日誌 A

がつ 月に ようび てんき 月 日 曜日 天気						
きょう しごと 今日の仕事						
こじんもくひょう 個人目標						
【評価 (ひょうか)】 ※ ○…できた △… ^{すこ} 少しできた ×…できなかった						
ばんごう 番号	ひょう か こう もく 評価項目			じこ 自己 ひょうか 評価	せんせい 先生	
1	きょう もくひょう 今日の目標	たっせい 達成できた。				
2	あいさつ へんじ 挨拶・返事	あいて き 相手に聞こえるようにできた。				
3	ことば 言葉づかい	ことば ていねいな言葉使いができた。				
4	ふく そう 服装	ふくそう み どの 服装・身だしなみが整っていた。				
5	しじりかい 指示・理解	せつめい しじ き ただ さぎょう 説明や指示を聞いて、正しく作業ができた。				
6	しゅうちゅうりょく じぞくりょく 集中力・持続力	しゅうちゅう さぎょう 集中して作業ができていた。				
7	ほうこく れんらく そうだん 報告・連絡・相談	じぶん 自分からできた。				
8	あんぜん 安全	さぎょう どうぐ あんぜん ただ つか 作業の道具を安全に正しく使えた。				
9	じかん 時間	さぎょう はじ お じかん まも 作業の始めと終わりの時間を守れた。				
10	せいりせいとん 整理整頓	じゅんび かたづ さぎょうば せいり 準備・片付け作業場の整理ができた。				
かん そう <感想>						
さぎょうたんとう <作業担当から>						
<クラスから>						

(2) 『現場実習評価表』の評価の数値化

現場実習後に回収された『現場実習評価表』の項目ごとの平均評価を出し、学年全体の達成状況と課題を分析した。また、学部会で還元し、共通理解できるようにした。

5 実践結果の分析

(1) 『就労チェックリスト(30項目)』の活用

2年次の後半(3回目)から3年次(4回目、5回目)の合計3回の現場実習に合わせて行った『就労チェックリスト』の統計結果を、資料5、資料6に記している。

生徒が記入した全体の平均値では、3回目(4.04)から5回目(4.53)にかけて0.49ポイントの上昇が見られた。項目別では、「整理整頓」「機器・道具の使用」「時間の遵守」の基本的労働習慣に係る平均値が高く、一方では、「交通機関の利用」「意思表示」「金銭管理」といった基本的生活習慣に係る平均値が低い傾向であった。

教員が記入した全体の平均値では、3回目(3.53)から5回目(3.95)にかけて0.42ポイントの上昇が見られた。項目別では、「機器・道具の使用」「出席状況」「責任感」の項目が高く、一方では、「言葉遣い」「会話」「交通機関の利用」といった項目が低い傾向であった。

以上のことから、『就労チェックリスト』については、生徒・教員ともに「機器・道具の使用」「交通機関の利用」など上位・下位で共通する項目が見られた。

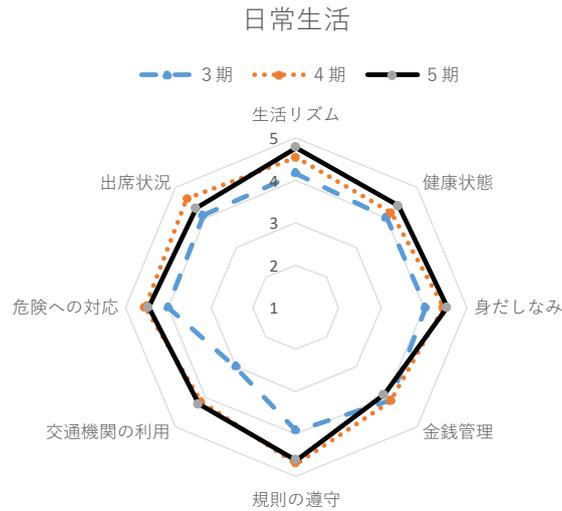
作業学習や日頃の学習活動、現場実習の積み重ねから結果としてわかりやすい「機器・道具の使用」「時間の遵守」「出席状況」などの項目が上位にある一方で、「意思表示」や「言葉遣い」「会話」といったコミュニケーションを必要とする場面や「交通機関の利用」「金銭管理」など自立的な生活場面が下位にあることがわかった。

就労チェックリスト(生徒平均)

① 日常生活に関する項目

n=16

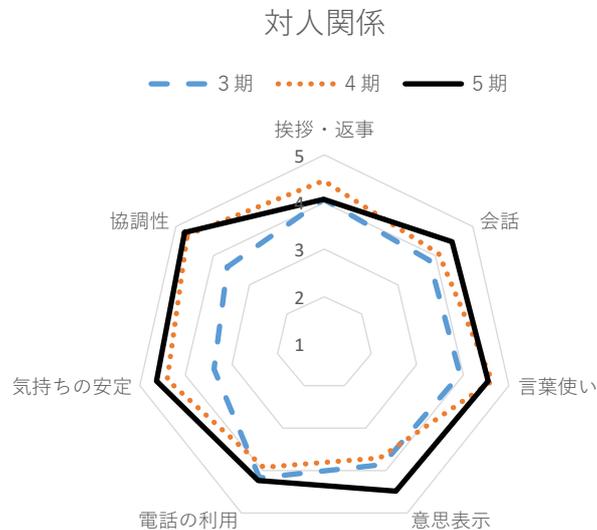
	日常生活							
	生活リズム	健康状態	身だしなみ	金銭管理	規則の遵守	交通機関の利用	危険への対応	出席状況
3期	4.15	4	4.04	4.13	3.92	3	4	4.08
4期	4.54	4.15	4.46	4.14	4.69	4.15	4.54	4.62
5期	4.77	4.38	4.54	3.92	4.62	4.23	4.46	4.31



② 対人関係に関する項目

n=16

	対人関係						
	挨拶・返事	会話	言葉使い	意思表示	電話の利用	気持ちの安定	協調性
3期	4.08	3.85	3.92	3.85	4.15	3.38	3.62
4期	4.46	4.08	4.62	3.69	3.92	4.38	4.69
5期	4.08	4.46	4.54	4.46	4.23	4.62	4.77

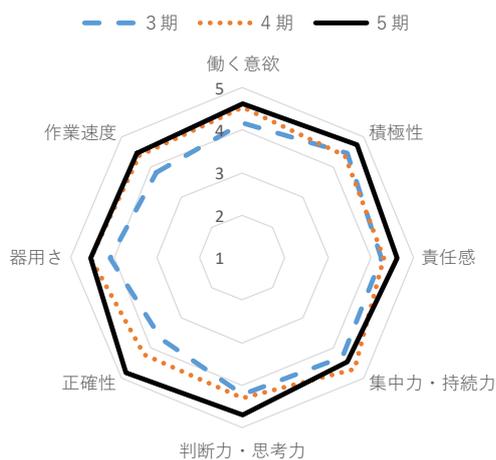


③ 作業能力・作業速度に関する項目

n=16

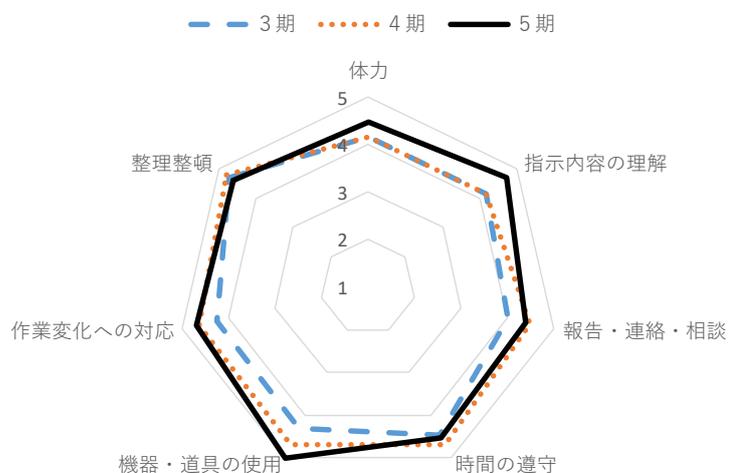
作業能力・作業速度 2								
	働く意欲	積極性	責任感	集中力・持続力	判断力・思考力	正確性	器用さ	作業速度
3期	4.15	4.46	4.23	4.31	4.23	3.69	4.08	3.85
4期	4.54	4.38	4.31	4.69	4.31	4.23	4.54	4.38
5期	4.62	4.77	4.62	4.46	4.69	4.85	4.54	4.46

作業能力・作業速度 1



作業能力・作業速度							
	体力	指示内容の理解	報告・連絡・相談	時間の遵守	機器・道具の使用	作業変化への対応	整理整頓
3期	4.15	4.15	4	4.46	4.31	4.23	4.69
4期	4.15	4.15	4.46	4.69	4.69	4.62	4.77
5期	4.46	4.69	4.38	4.54	5	4.69	4.62

作業能力・作業速度2

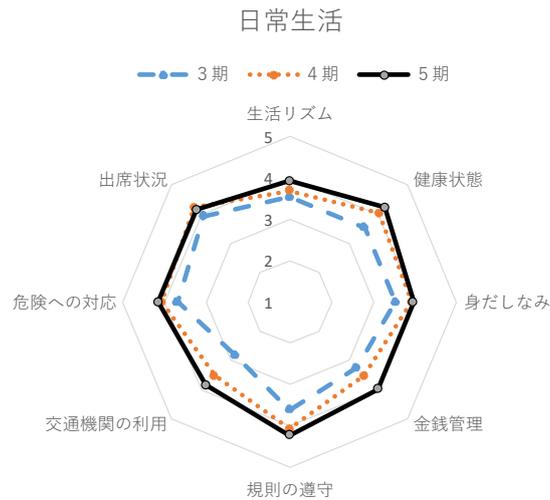


就労チェックリスト(担任平均)

① 日常生活に関する項目

n=16

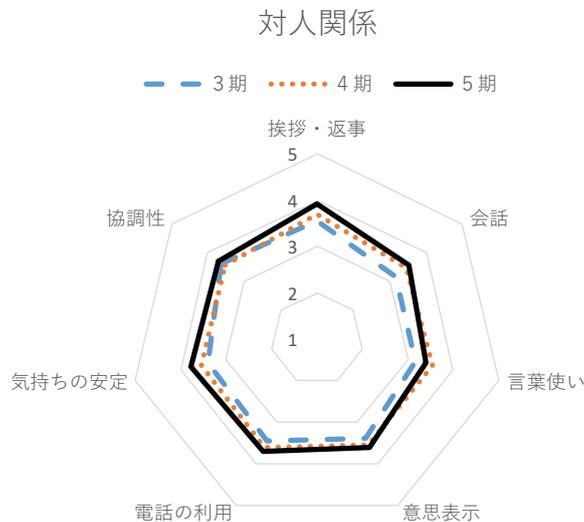
	日常生活							
	生活リズム	健康状態	身だしなみ	金銭管理	規則の遵守	交通機関の利用	危険への対応	出席状況
3期	3.54	3.55	3.54	3.25	3.62	2.85	3.69	3.92
4期	3.69	4.04	3.92	3.52	4.08	3.54	4.08	4.23
5期	3.92	4.22	3.96	3.99	4.23	3.85	4.15	4.15



② 対人関係に関する項目

n=16

	対人関係						
	挨拶・返事	会話	言葉使い	意思表示	電話の利用	気持ちの安定	協調性
3期	3.54	3.15	3.15	3.38	3.46	3.38	3.62
4期	3.69	3.46	3.54	3.54	3.62	3.54	3.54
5期	3.92	3.54	3.38	3.62	3.69	3.77	3.69

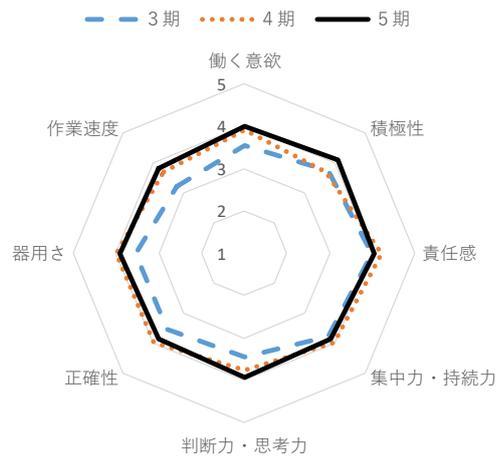


③ 作業能力・作業速度に関する項目

n=16

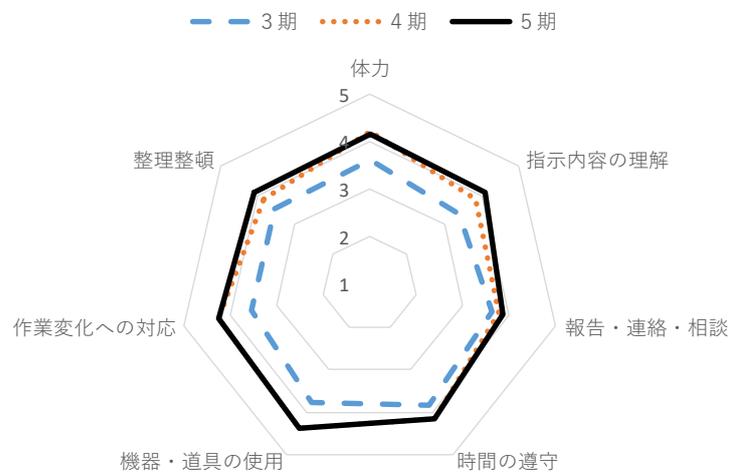
作業能力・作業速度 2								
	働く意欲	積極性	責任感	集中力・持続力	判断力・思考力	正確性	器用さ	作業速度
3期	3.54	3.77	4.00	3.77	3.46	3.54	3.54	3.23
4期	3.92	3.69	4.23	4.00	3.77	4.00	4.00	3.69
5期	4	4.1	4.04	3.85	3.92	3.85	3.92	3.85

作業能力・作業速度 1



作業能力・作業速度							
	体力	指示内容の理解	報告・連絡・相談	時間の遵守	機器・道具の使用	作業変化への対応	整理整頓
3期	3.62	3.38	3.62	3.85	3.77	3.54	3.54
4期	4.23	3.85	3.77	4.15	4.38	4.23	3.85
5期	4.15	4.08	3.85	4.15	4.38	4.23	4.08

作業能力・作業速度2



(2) 『現場実習評価表(12項目)』の改良と活用

2年次の後半(3回目)から3年次(4回目、5回目)の合計3回の現場実習に合わせて行った『現場実習評価表』の統計結果を資料7に示している。

平均値で高い項目は、「身だしなみ」で、低い項目は、「挨拶・返事」であった。

事業所からの所見では、「挨拶はできていたが、声が小さく聞き取れないことがあった(就労継続支援A型)」、「自発的に挨拶することが出来ず、職員から促されて挨拶することが多々あった(就労移行支援)」などの指摘があった。

これらのことから就労形態や評価者が違うことや現場実習を重ねるごとに評価が厳しくなる傾向がわかった。

しかし、『就労チェックリスト』の傾向に近いものはあったが、生徒が連続して同じ事業所で現場実習をしておらず、評価者が異なることや就労形態を変えて現場実習を行ったことが要因していると考えられる。

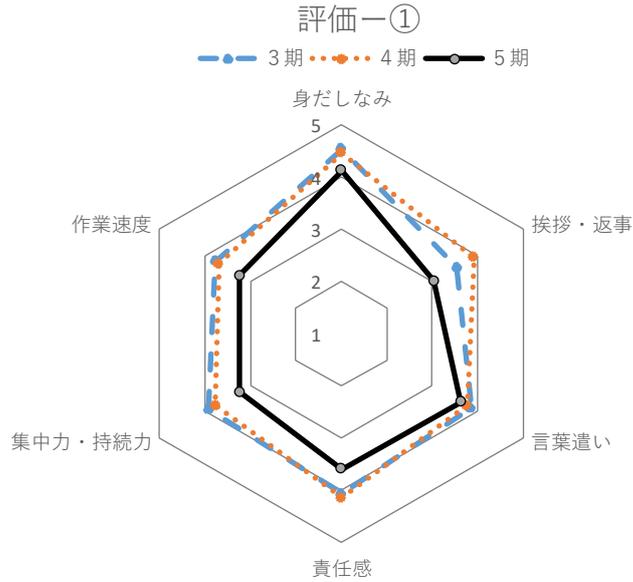
上位・下位ともに『就労チェックリスト』の結果、必ずしも同じではなかったことから、ツールとしての系統性は評価できなかった。

(3) 『作業学習日誌』の改良と活用

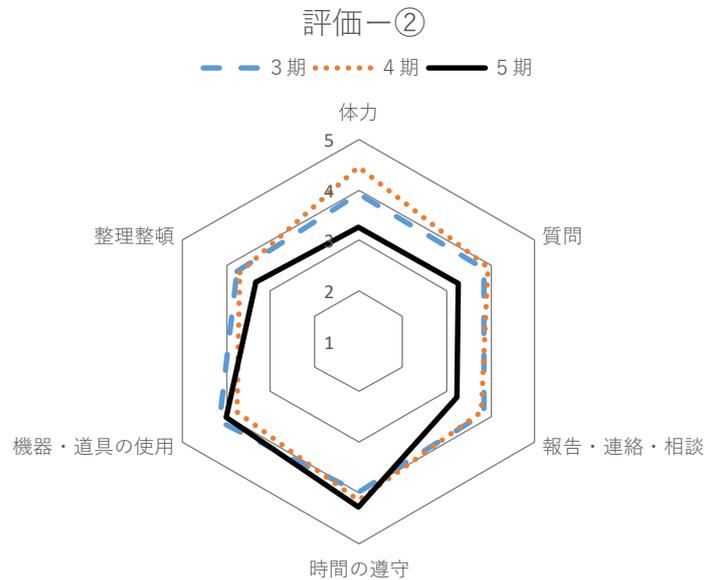
日誌に記入する生徒の目標が「～を丁寧にする」「点検、報・連・相をする」など任せられた作業に対して具体的なものになった。また、担任からのコメントが賞賛や次に向けてのアドバイスの記入が見られるようになった。

現場実習評価

	評価①					
	身だしなみ	挨拶・返事	言葉遣い	責任感	集中力・持続力	作業速度
3期	4.54	3.54	3.85	4.08	3.92	3.77
4期	4.46	3.92	3.77	4.15	3.77	3.69
5期	4.13	3.03	3.63	3.6	3.23	3.23



	評価②					
	体力	質問	報告・連絡・相談	時間の遵守	機器・道具の使用	整理整頓
3期	3.92	3.85	3.85	4	4.15	3.77
4期	4.46	3.92	3.77	4.15	3.77	3.69
5期	3.27	3.27	3.23	4.27	4	3.33



7 成果と課題

『就労チェックリスト』で、生徒と教員間の平均値の上位・下位で共通する傾向が見られたことから、現場実習ごとにチェックすることで、振り返りができたり、新たな気づきが生まれたりし、生徒の「自己理解」が深まっていったことは効果であった。また、進路面談時にも、結果を保護者と確認することで、生徒、保護者、担任の三者で成果と課題を共通理解できるツールとなった。

しかし、『現場実習評価表』は、実習先や就労形態が変わったことや現場実習を重ねるたびに、評価も厳しくなってくる傾向があった。

生徒が『現場実習評価表』を見ることで、現場実習時を振り返り、事業所から指摘のあった場面を思い出すなどして成果と課題を自身のものとして受け止めることができた点はよかったが、課題として出されたことを生徒へ還元するためには、事業所にどのような視点で評価しているかなどの聞き取りをし、評価項目を再度検討する必要がある。

『作業学習日誌』の改善では、生徒の自己評価場面や作業担当者と担任との連携などの点で一定の改善が見られた。今後は、評価項目の内容やコメント欄などを再検討し、より効果的に生徒へ還元できるよう、さらなる工夫をしたい。

全体的に各ツールが連動し、系統性を持たせたことで、生徒が自己理解を深めて課題改善へと働きかける一定の効果はあったものとする。

8 課題解決の方向性

「自分らしく 生きる」力を習得し、継続的な職業生活を営みながら、今後さらにステップアップしていくためには、社会や事業所がどこまでのスキルを必要としているかを知り、教員間で情報交換や生徒の目標（めあて）を把握することが必要となる。それを踏まえて、生徒一人一人が目標（めあて）を設定し、目標達成できるよう教科「職業」や「作業学習」をはじめ、その他の学習場面においても意識して学習活動に取り組めるようにシステムを構築したい。

ツールについては、『就労チェックリスト』との系統性も踏まえて、『現場実習評価表』は事業所にどのような視点で評価しているかなどの調査をし、評価項目を再度検討したい。また、『作業学習日誌』についても、より生徒が課題改善へ取り組めるように見直しをしていきたいと考えている。